

Osseodensification

頂部サイナスリフトプロトコルII



Crestal Sinus Lift
Protocol II

残存骨の最小高さ 4-5 mm 必要な最小歯槽幅 = 5 mm

概要: デンサーバーをステップごとに使用します。例: 2.0 mm、3.0 mm、4.0 mm、5.0 mm

- 上顎洞底までの骨の高さを測定
- パイロットドリルを使用しない
- デンサーバー (2.0) をODモードで上顎洞底まで使用
- デンサーバー (3.0) をODモードで上顎洞底を3MM超えるまで挿入
- デンサーバー (4.0)、(5.0) をODモードで上顎洞底を3MM超えるまで使用し、オステオトミーをさらに拡大
- デンサーバーをステップごとに使用します。例: 2.0 MM、3.0 MM、4.0 MM、5.0 MM
- 最後に使用するデンサーバーを低速で使用し、よく潤った同種移植片を穏やかに推進

ステップ1:

ステップ1:

上顎洞底までの骨の高さを測定します。

通常使用される器具と技術を使用して軟組織をフラップします。

ステップ2:

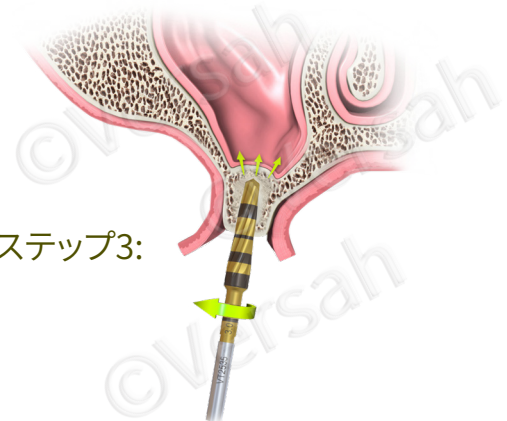
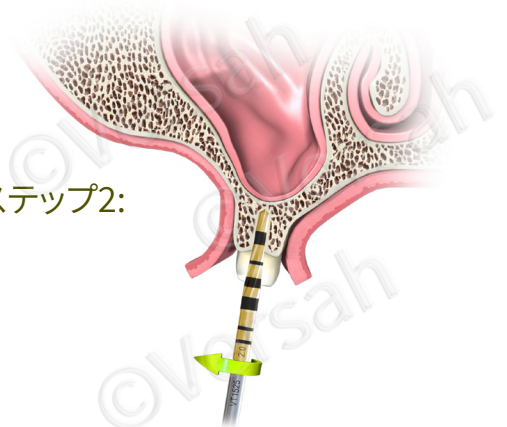
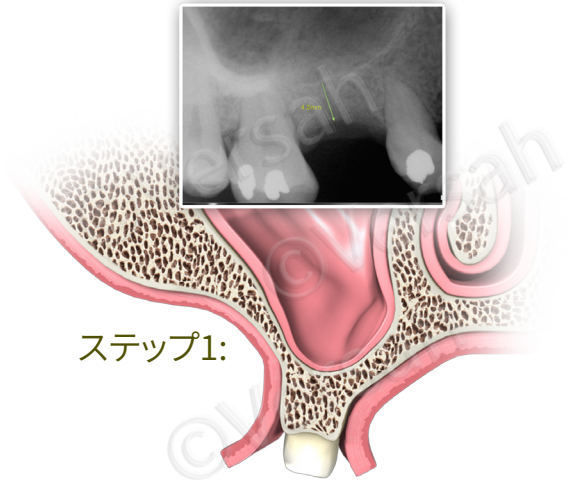
デンサーバー (2.0) をODモードで上顎洞底まで使用します。パイロットドリルを使用しないでください。部位に選択されたインプラントの種類や直径に応じて、最も細いデンサーバー (2.0) から始めます。手術モーターを逆回転モードに変更します (灌流を伴う逆回転ドリル速度800-1500rpm - デンシファイモード)。バをオステオトミーに挿入し、上顎洞底の密な部分に到達するまで進めます。X線でバの位置を確認します。

ステップ2:

ステップ3:

デンサーバー (3.0) をODモードで上顎洞底を3mm超えるまで挿入します。次に広いデンサーバー (3.0) を使用し、圧力を調整しながらポンピング動作を行い、既に作成されたオステオトミーに進めます。バが上顎洞底に到達する触覚フィードバックを感じたら、1mm刻みで進行し、上顎洞底を超えないようにします。**上顎洞底を超える最大進行距離は、いかなる段階でも3mmを超えてはなりません。**骨は根尖部に押し進められ、膜が穏やかに持ち上がり、自家移植片が最大3mmまで圧縮されます。バの垂直位置をX線で確認します。

ステップ3:



Clinical Versatility of Osseodensification

ステップ4:

ステップ4:

デンサーバー (4.0)、(5.0) をODモードで上顎洞底を3mm超えるまで使用します。

灌流を伴う逆回転モード(ドリル速度800-1500rpm)でデンサーバーを順次使用し、圧力を調整しながらポンピング動作を行い、最終的なインプラント埋入幅に到達するために膜リフトを1mm刻みで最大3mmまで達成します。**デンサーバーは、上顎洞底を3mm以上進行させないようにし、常にデンサーバーの直径に関係なく制御します。**

ステップ5:

In cases where additional lift of the membrane (more than 3 mm) is needed, an allograft material can be gently pushed into the sinus.

ステップ5:

ステップ5:

移植片を推進します。

最終的な計画されたオステオトミー直径に到達した後、オステオトミーをよく潤った主に海綿骨の同種移植片で満たします。デンサーバーを低速で使用し、灌流を行わず、移植片を上顎洞に穏やかに推進します。デンサーバーは、移植片をさらに圧縮し、上顎洞膜を持ち上げることのみを行い、上顎洞底を2-3mm以上超えることはありません。膜の追加リフトが必要な場合、移植片の推進ステップを繰り返します。

ステップ6:

ステップ6:

インプラントを埋入します。

インプラントをオステオトミーに挿入します。手術モーターを使用してインプラントを埋入する場合、設置トルクの最大値に達するとユニットが停止することがあります。トルク表示ラチェットレンチを使用してインプラントを手動で適切な深さまで埋入します。



詳細については、versahinternational.com/od-published-papers/をご覧ください。

臨床医の判断と経験は、この臨床実践提案プロトコルと共に適用されるべきです。